

## 1 ごみ処理の概要

ごみ排出の状況:ごみ総排出量は微減、1人1日当たりのごみ排出量は横ばい。

ごみ総排出量 393,678 トン(前年度 397,248 トン) [ 0.9% 減 ]  
 1人1日当たりのごみ排出量 982 グラム(前年度 987 グラム) [ 5グラム 減 ]

ごみ処理の状況:

総資源化量(再生利用量) 65,145 トン(前年度 62,594 トン) [ 4.1% 増 ]  
 中間処理による再生利用量 31,845 トン(前年度 31,590 トン) [ 0.8% 増 ]  
 最終処分量 45,939 トン(前年度 42,991 トン) [ 6.9% 増 ]  
 リサイクル率 16.6%(前年度 15.9%) [ 0.7ポイント増 ]

最終処分場の状況:残余容量は、減少傾向。

残余容量 約 935 千m<sup>3</sup>(前年度 約 991 千m<sup>3</sup>) [5.6% 減 ]

### (1) ごみの排出量

区分	P27ロー図との対応	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度
人口(人)	-	1,128,454	1,119,318	1,112,034	1,102,870	1,095,673
計画収集人口	-	1,128,444	1,119,308	1,112,034	1,102,870	1,095,673
自家処理人口	-	10	10	0	0	0
ごみ総排出量(t)	-	405,934	397,394	387,986	397,248	393,678
計画収集量	A	347,733	341,518	332,865	331,414	333,497
直接搬入量	B	55,908	53,683	52,775	62,752	56,981
集団回収量	C	2,293	2,193	2,346	3,082	3,200
1人1日あたりのごみ排出量(g)	-	983	973	956	987	982
最終処分量(t)	M	49,729	47,677	43,930	42,991	45,939
直接最終処分量	D	3,308	2,463	2,418	1,701	2,762
焼却残さの埋立量	K	38,568	37,219	35,052	34,513	35,802
中間処理残さの埋立量	H	7,853	7,995	6,460	6,777	7,375
中間処理量(t)	-	378,146	374,051	363,962	374,237	371,902
焼却処理量	J	318,436	312,893	304,369	312,897	311,775
直接焼却量	E	304,118	298,903	290,617	298,444	297,110
中間処理残さの焼却量	I	14,318	13,990	13,752	14,453	14,665
焼却以外の中間処理量	F	59,710	61,158	59,593	61,340	60,127
粗大ごみ処理施設の処理量	-	3,646	3,596	3,273	3,562	3,654
その他資源化等を行う施設の処理量	-	40,125	41,734	41,325	43,242	41,643
その他施設の処理量(理立のための破砕・減容化等)	-	15,939	15,828	14,995	14,536	14,830
総資源化量(t)	N	71,848	68,328	66,116	62,594	65,145
市町村による資源化量	-	69,555	66,135	63,770	59,512	61,945
中間処理後の再生利用量	L	32,166	33,084	33,053	31,590	31,845
直接資源化量	G	37,389	33,051	30,717	27,922	30,100
集団回収量	C	2,293	2,193	2,346	3,082	3,200
自家処理量(t)	-	255	231	213	0	0
リサイクル率(%)	-	17.7%	17.2%	17.1%	15.9%	16.6%

- (注)
- ・ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量
  - ・人口は各年度における10月1日現在の住民基本台帳人口。
  - ・集団回収量とは、市町村による用具の貸出や補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量のこと。
  - ・1人1日あたりのごみ排出量(g)=ごみ総排出量(t)÷計画処理収集人口÷365日又は366日×10<sup>6</sup>
  - ・リサイクル率=(市町村資源化量+集団回収量)÷(ごみ処理量+集団回収量)×100
  - ・ごみ処理量=直接焼却量+焼却以外の中間処理量+直接最終処分量+直接資源化量

## ① ごみ処理のフロー

一般廃棄物は、市町村等により計画的に収集されるものと、住民から市町村等の施設に直接持ち込まれるものがあります。これらの一般廃棄物の処理は、そのまま直接資源として利用されるもの、焼却や破碎などの中間処理を経て資源化されるもの、中間処理を経て最終処分されるもの、収集後そのまま最終処分されるものに分かれます。それぞれの処理量は次のとおりです。

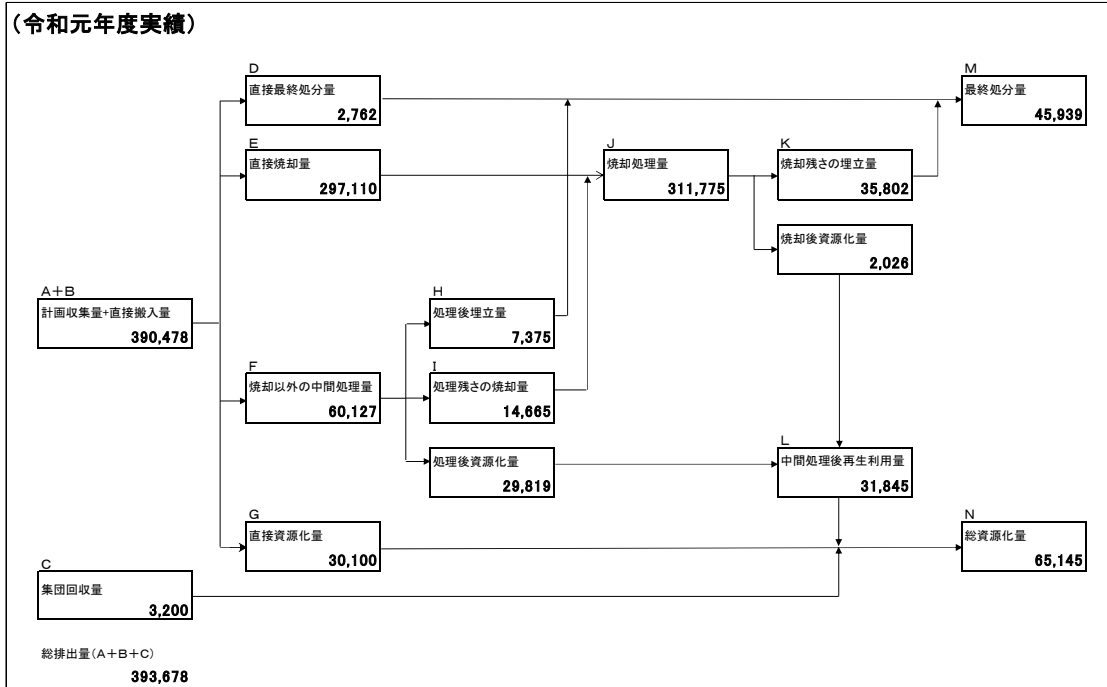


図 1 ごみ処理のフロー

## ② ごみの排出量

令和元年度のごみ総排出量は 393,678 トンで、前年度と比較すると約 0.9%減少しています。

1人1日あたりの排出量は 982g で、前年度から 5g減少し、全国値(918g)と比較すると、64g 多い値となっています。

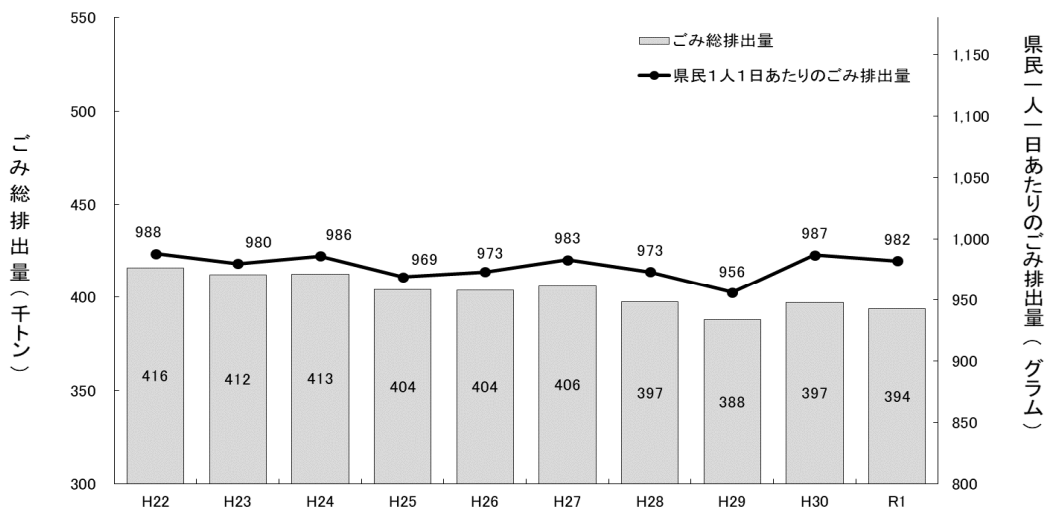


図 2 ごみ総排出量と県民1人1日あたりのごみ排出量の推移

### ③ 地区別ごみ排出状況

令和元年度の県内7地区毎の1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率は次のとおりです。

ごみ排出量が最も少ない地区は西都・児湯地域の715g/人・日で、最も多いのは日南・串間地域の1,195g/人・日です。リサイクル率については、西諸県地区が最も高く24.3%、最も低いのは、西都・児湯地域の12.8%となっています。

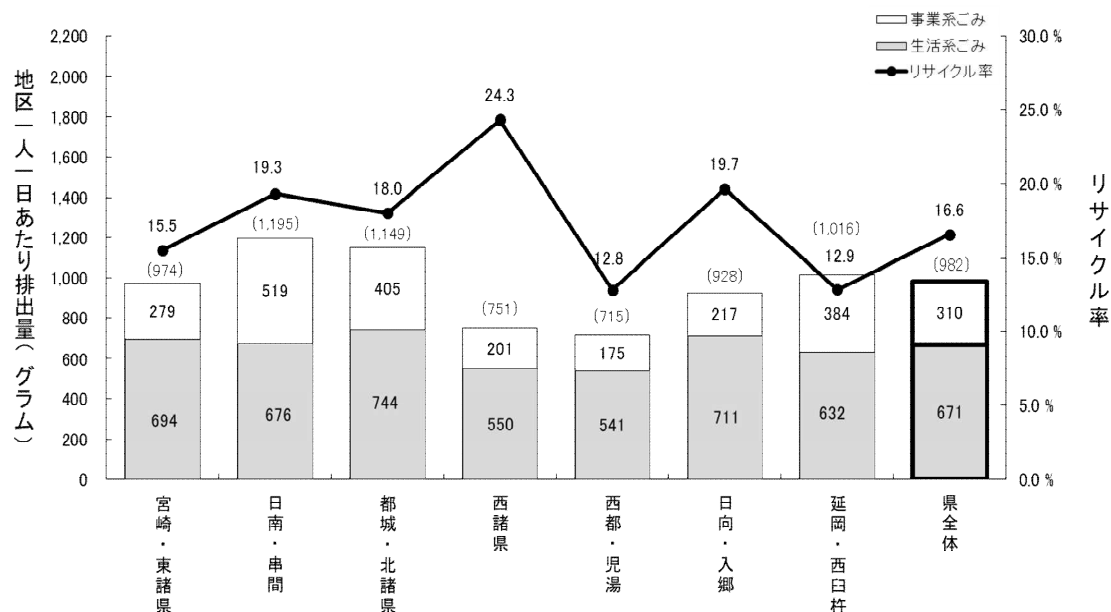


図 3 地区別の1人1日あたりのごみ排出量及びリサイクル率

### (2) ごみ処理による減量化とリサイクル

令和元年度の市町村等による資源化量と住民団体等による集団回収量を合わせた総資源化量は65,145トンで、前年度と比較すると約4.1%増加しました。

リサイクル率は、前年度と比較して0.7ポイント上昇し16.6%となっています。本県のリサイクル率は、全国値(19.6%)と比較すると3.0ポイント低くなっています。

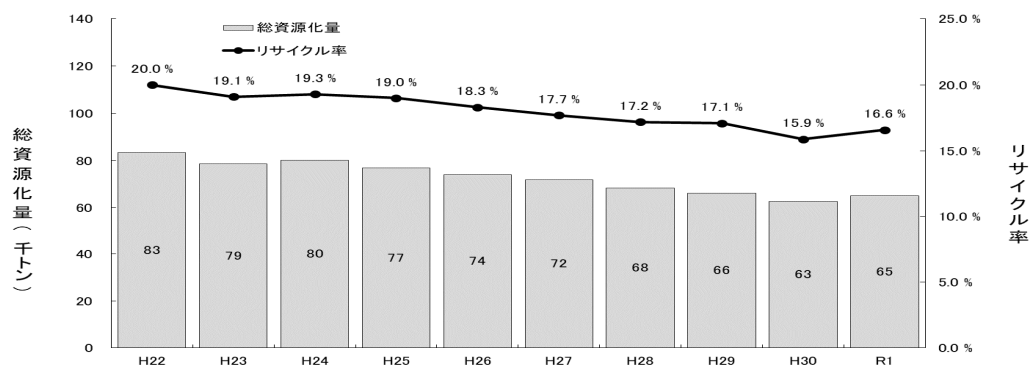


図 4 総資源化量とリサイクル率の推移

### (3) 最終処分状況

令和元年度の最終処分量は45,939ト、前年度と比較すると約6.9%(2,948ト)増加しました。

市町村及び一部事務組合等が設置し、令和元年度末現在埋立を行っている最終処分場は16施設で、全ての施設の残余容量の合計は約935千 $m^3$ です。仮に、令和元年度の最終処分量が今後続くとした場合、最終処分の残余年数は、約16.6年となります。(埋立ごみ比重を0.8163とした場合)

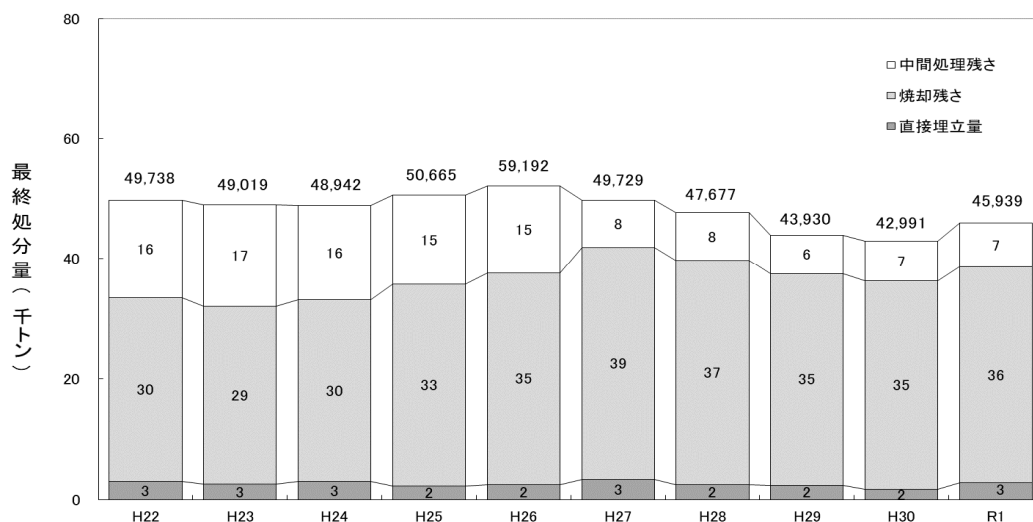


図 5 最終処分量の推移

### (4) ごみ処理事業経費

令和元年度の市町村及び一部事務組合等のごみ処理に要する経費(建設改良費を除く)は約132億円で、直近10年間ではほぼ横ばいとなっています。県民一人あたりに換算すると12,029円、ごみ1トあたりに換算すると約33,787円となります。

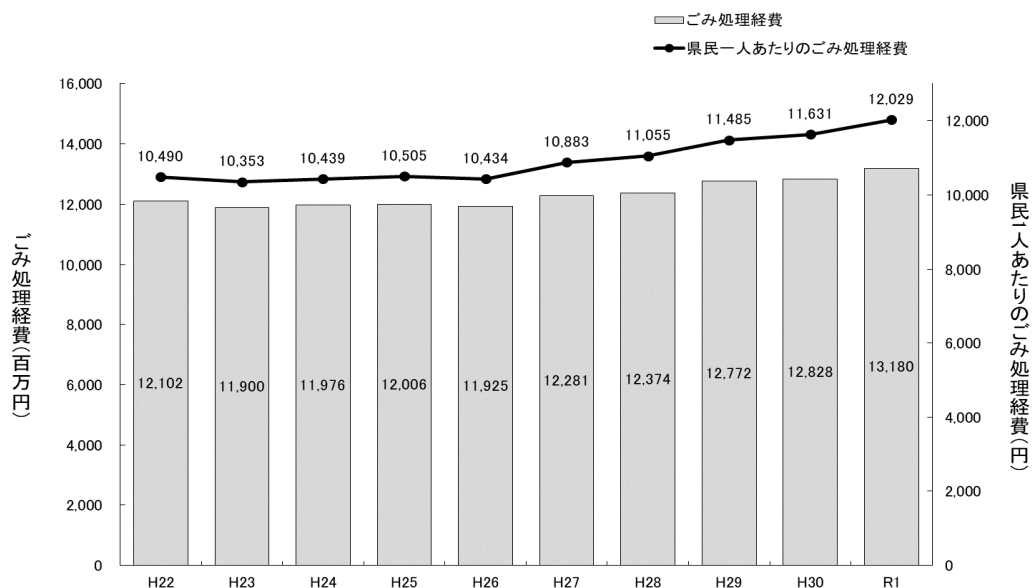


図 6 市町村等のごみ処理経費(建設改良費を除く)と  
県民一人あたりのごみ処理経費の推移